

資料

新宿歌舞伎町の景観と色彩

Landscape Design and Color at Shinjuku-Kabukichou

萩原 京子 トータリアカラーアカデミー Kyoko Hagiwara

1. 新宿歌舞伎町という町

「歌舞伎町の色？ 赤だよ。」

カメラと測色機を持ち、新宿歌舞伎町を調査していた同僚が通行中の男性から言われたことばである。赤い看板、赤い垂れ幕、赤いプラカード。この街を歩いていると、たくさんの赤が目にはいる。渋谷、六本木、池袋といった繁華街より街の中にある“赤の量”が多く、それが新宿歌舞伎町のもつ独特のバイタリティや緊張感を作り出す色彩面の要因ではないだろうか。この疑問が、1994年の春から夏にかけて行った新宿歌舞伎町の色彩調査の出発点である。

新宿歌舞伎町1丁目と2丁目の両方で予備調査を行った結果、歌舞伎町1丁目の新宿プリンスホテルとセントラルロードに挟まれた地区を今回の調査の範囲とした。新宿歌舞伎町の中でも人通りが多く、とくに繁華街らしさを感じさせる場所である。この地区の85の建物について、(1)外壁の色彩、(2)壁面に対するサインの比率、(3)サインの色彩を調査・算定した。

2. 新宿歌舞伎町の色彩

(1) 外壁の色彩

サインに埋もれて外壁がほとんど見えないため、外壁の色彩に関してはとくに際だった印象はない。測色機による測定を行ったが、外壁色として一般的な白系の色とブラウン系の色が多く使用されている。しかし、色相・明度・彩度ともに分布の範囲が広く、まとまりがないことが特徴である。

(2) 壁面に対するサインの比率

調査対象となった建物の写真を分析した結果、壁面に対するサインの面積比率が非常に大きいことがわかった。サインと外壁面積と開口部の平均面積比率は、30:47:23である。もっともサインの比率が多かった建物は、サインが83% (巨大なカラオケのネオンサイン)、外壁が4%、開口部が13%である。サインの面積比率が50%以上の建物が10棟あった。

調査した地区には、規模の小さい雑居ビルが多い。それぞれのテナントが、思い思いにサインを出すため、サインの量、形態、色彩すべての面で華美・過剰な印象を受ける。

建物に付属するサインの形態は袖看板、垂れ幕、壁面や開口部に張り付けたサインなどである。路上にも、電飾付き移動型床置き看板、プラカード、旗など存在している。ひとつのテナントが複数のサインを表示している例が多い。たとえば、居酒屋の袖看板・垂れ幕・旗、ファーストフードチェーンの壁面のサイン・旗、カラオケ店の袖看板・壁面のサイン・床置き看板の組み合わせなどである。色彩面からみても多種・多様で、サインの色彩が新宿歌舞伎町の色彩を決定する大きな要素となっている。

(3) サインの色彩

サインの色彩については、袖看板の地色と図色に分けて使われている色の調査を行った。その結果、

1) 袖看板の地色には、一般に白色が使われることが多い。しかし、調査した地区の袖看板の地色の半数以上に有彩色が使われていた。使われている有彩色は彩度の高いものがほとんどである。色相別にみると赤が使われている割合が多い。

2) テナントの入れ替わりが激しいため、サインは新しいものがほとんどである。

などがわかった。

3. 新宿歌舞伎町のサイン

調査地区に存在するサインについて、テナントの種類とサインの色彩傾向の関係を以下にまとめてみたい。

(1) 赤——赤を地色に用いたサインには、種々の例が見られる。居酒屋のチェーン店のサインは地色が赤、文字の色が黒または白で構成されるタイプが多い。ハンバーガーなどのファーストフードチェーンでは赤の地色に、白の文字の組み合わせが用いられている。

(2) 橙——牛丼チェーンの橙を地色に、文字が白また

は黒で構成されるサインが存在する。カラオケチェーンの地色が橙，文字色が青のサインのコントラストも非常に目につく。

- (3) 黄——麻雀の店舗に多く見られる。黄色を地色に、赤や緑を図色にした組み合わせが多い。
- (4) 緑——緑が地色のサインは、数は少ないが麻雀の店舗に見られた。
- (5) 青——サインの地色に青が使われている例は、それほど多くない。金融関係、カラオケなどに見られる。
- (6) 紫——紫も使用例は少ない。高明度の紫が、一部の風俗店で使われている。
- (7) 白——有彩色を多用したサインの中で、白地に黒文字のサインは新鮮な印象を与える。ラーメンのチェーン店、和風の飲食店、個人経営の居酒屋などで用いられている。
- (8) 多色型——白を地色に文字や絵柄が多色相配色で構成されているタイプである。カラオケ店の袖看板、床置き看板に多い。一部のゲームセンターでも、高彩度の色を色相のグラデーション配色で用いた例がある。
- (9) 意匠型——ゲームセンターのサインに多い。色彩だけではなく、意匠的にも目立つタイプである。巨大なワニのオブジェが外壁の幅いっぱい広がっていたり、恐竜の首が突き出しているなどの例が見られた。
- (10) その他——蛍光色は、床置き看板や、プラカードに多く使われている。赤を地色に蛍光色の黄色と黒の文字を組み合わせた風俗店のサインが目についた。

調査した地区のパチンコ店では、すべての店舗の壁面で金属色を使用していた。金属色とネオンの組み合わせであっさりした外観をもつものが多い。しかし、金属反射の壁面に、大量の垂れ幕をつけたパチンコ店もあった。

4. 新宿歌舞伎町の景観

今回調査した地区では道路がカラー舗装されている。歌舞伎町1丁目については、電柱の地下埋設がすでに完了している。サインの洪水に埋もれてあまり目立たないが、よく見るとこったデザインの街灯もみられる。

新宿歌舞伎町の環境色彩を考える際に、最大の問題点はやはりサインの色彩であろう。

- (1) 暖色系の色相を中心に高彩度の色を多用している。
 - (2) 大面積のサインに高彩度の地色を多用している。
 - (3) サインに使用されている色の数が多い。
 - (4) コントラストの強い配色が多い。
- など、やすらぎ、うるおい、安心といったイメージと

はほど遠い色使いである。しかし、これらの色彩が繁華街・歓楽街としての活気、バイタリティ、楽しさを演出している面もある。

新宿歌舞伎町の色彩については、「赤」の使い方を中心に今後も注意深く観察してゆきたいと思っている。

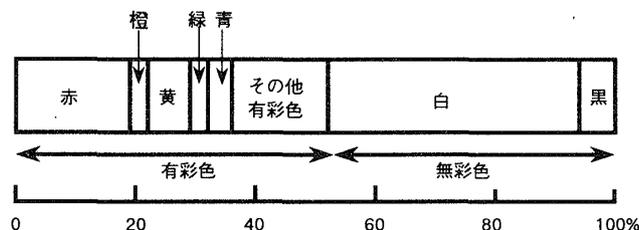


図1 袖看板の地色の割合

地色	赤	橙	黄	緑	青	紫	白	黒
赤			中華料理 テレクラ				居酒屋チ ェーン ハンバー ガーチ ェーン	居酒屋チ ェーン
橙					喫茶店チ ェーン		牛丼チ ェーン	牛丼チ ェーン
黄	麻雀							中華料理 ゲームセ ンター
緑								
青	カラオケ		風俗				金融関係 ゲームセ ンター	
紫								
白					ゲームセ ンター			ラーメン チ ェーン 和風の飲 食店
黒			パブ				個人経営 の居酒屋	

図2 袖看板の色の組み合わせ

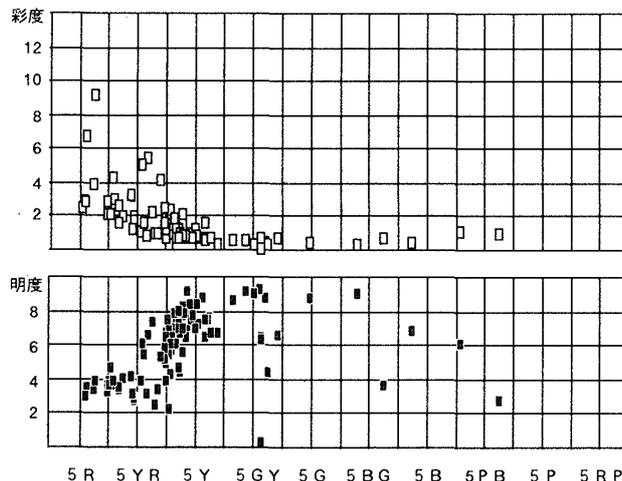


図3 外壁の色彩分布